

言語を軸に

据え社会との

接点を考える

東京言語研究所

開設 50 周年記念 公開講座

東京言語研究所は、今年開設 50 周年を迎えました。50 周年を記念する公開講座では言語を軸に据え社会との接点を考えることを目的としています。

今回は下記の要領で開設 50 周年記念公開講座を開催いたします。奮ってご参加ください。

＜演題＞夢ではトルコ語を話します：

ベルリンに住むトルコ系の若者たちがアンケートを通して教えてくれる多言語使用

＜講師＞林 徹氏（東京大学教授）

＜日時＞2016 年 10 月 15 日(土) 15:30～18:30

＜会場＞東京言語研究所（新宿区西新宿 6-24-1 西新宿三井ビル 13 階）

＜参加費＞一般 1,500 円 学生 1,000 円（当日学生証提示）

*2016 年度理論言語学講座受講生は 500 円 ※参加費は当日現金でお支払下さい。

＜申込み＞ホームページ申込みフォームもしくは FAX でお申し込みください。定数:60名

①公開講座受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号 ⑦ E メールアドレス

⑧区分（2016 年度理論言語学講座受講生・一般・学生）⑨所属（大学生・大学院生・教員・会社員・その他）

（上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません。）

講師紹介

東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退（文学修士 1979）。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（通称AA研）助手、同助教授、東京大学助教授を経て、現在、同大学院人文社会系研究科教授。専門は、トルコ語とウイグル語を中心に、チュルク諸語の、方言、言語接触、秘密語などの調査・研究。ときどき指示詞の調査も。主な著書・報告書は、『トルコ語文法ハンドブック』2013 白水社、『トルコ語会話の知識』（A. ヤマンラールとの共著）1994 大学書林、『Attitudes to language use in a multi-cultural setting: A report on questionnaire surveys of Korean/Japanese and Turkish/German speakers.』（生越直樹との共著）2004 大阪学院大学、『A Şayxil vocabulary』（サービット・ローズィー他との共著）1999 京都大学言語学研究室、『A Turkish dialect in north-western Anatolia: Bolu dialect materials』1988 AA研。

問合せ先

公益財団法人 ラボ国際交流センター

東京言語研究所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1

西新宿三井ビル16階

TEL:03-5324-3420

FAX:03-5324-3427

ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

【講義要旨】

今回の講座では、日常的に複数の言語を使うことが、どういう結果を引き起こすかについて、ドイツに暮らすトルコ系の若者から得た情報をもとに、言語接触の視点から考えてみたいと思います。

西ヨーロッパ諸国にはトルコからの移民、および移民の両親や祖父母を持つ多くの人が暮らしています。特にドイツは、まだ西ドイツだった1960年代から、鉱山や工場の人手不足を補うため、政府間で協定を結び、トルコから多くの労働者を受け入れました。当初トルコからの労働者の多くは単身赴任でしたが、西ドイツ政府の援助もあって、家族を呼び寄せるケースが増え、現在では、少なく見積もっても約250万人のトルコ系住民がドイツ国内に暮らしています。すでにその大多数はドイツ生まれですが、トルコ系同士の結婚が主流だったことにより、トルコ系住民の間では、ドイツ語と並んで、まだトルコ語も使い続けられています。

講座の前半では、ひとまずドイツから離れて、言語接触によって引き起こされる言語使用の状態や言語構造の変化について、借用、多言語使用（併用）、言語シフトの順で概観します。次に、代表的な接触変種と言われる、ピジン、クレオール、中間言語、混成語などの特徴について、先行研究に依りつつまとめます。

後半では、西ヨーロッパにおけるトルコ系移民の言語に関する諸研究を概観したのち、私自身が、トルコ語とドイツ語を日常的に使っているトルコ系の若者を対象として、ベルリンで5年おきに複数回おこなったアンケート調査について報告します。場面や相手による言語選択、トルコ語とドイツ語についての評価、コードスイッチングに対する態度などを見る予定です。また、調査方法についても、多くの反省点とともに、できるだけ詳しく紹介するつもりです。

言語接触や言語のバリエーションに興味を持つ方々だけでなく、バリエーションのことなどできれば考えたくないと思っている方々にもヒントとなるようなお話ができればと思っています。



『ことばの宇宙への旅立ちー10代からの言語学』大津由紀雄編 好評発売中

第一線で活躍する言語学者自身の研究の紹介や言語学を志すきっかけなどのエピソードが盛り込まれています。発行：東京言語研究所／発売：ひつじ書房

書店にない場合は直接研究所にご注文ください。